

現場で使う新しい森林管理技術

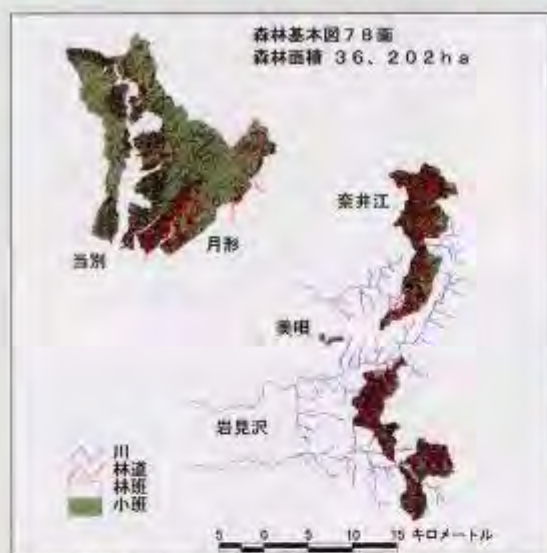


図-1 5千分の1森林基本図をもとに入力した岩見沢経営区の林相図

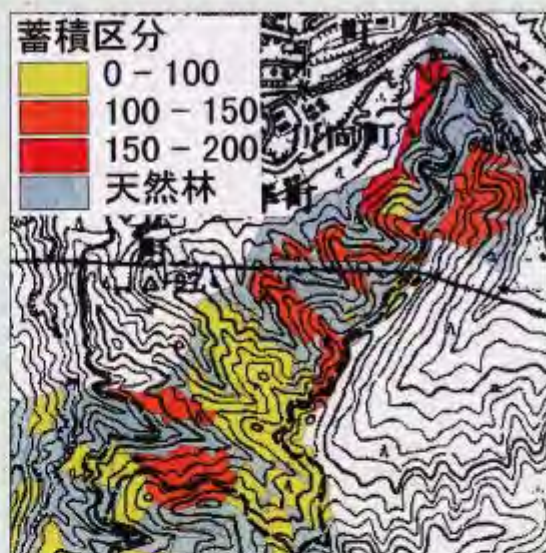


図-2 蓄積区分と地形図の重ねあわせ

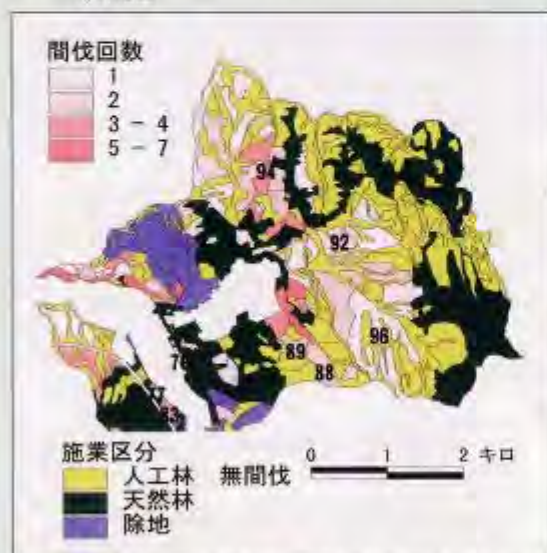


図-3 間伐回数の色別区分と間伐の最終実行年度(数字)



図-4 複合検索の例
(黄色は林道を含み、蓄積が150m³/ha以上のトドマツ小班)

林業試験場ではGISとリモートセンシングを活用した森林管理支援システムの開発に取り組んできました。平成9年には、これらの研究成果の実用化として岩見沢と旭川の道有林管理センターに森林GISを導入し、現場での活用を進めています(図-1)。

安価で操作性のあるパソコンを使用して、小班ごとに検索して図化できます(図-2.3.4)。現場での計画立案や資料作成に利用できます。

平成10年には、GISと地上解像力1mの高分解能衛星や正射写真図(オルソ)などの画像情報とを組み合わせ、森林現況の確認や修正にも役立てていきたいと考えています。

(経営科)